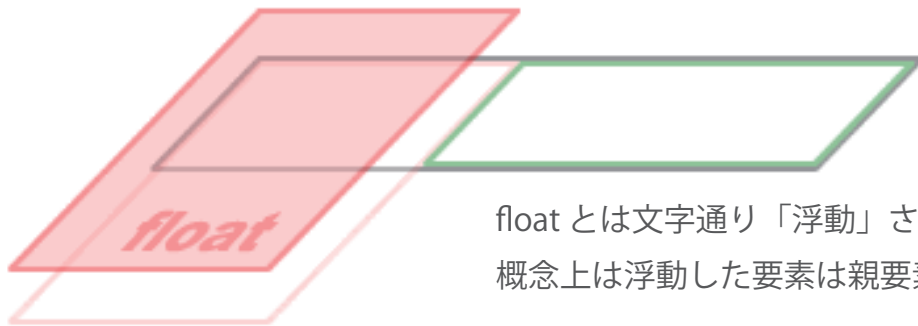
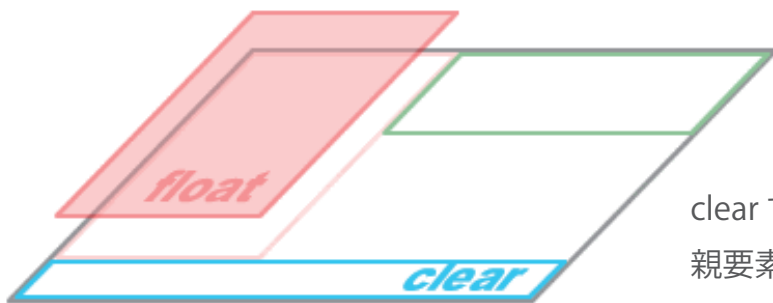


float とは文字通り「浮動」させることで、概念上は浮動した要素は親要素に入っていないことになります。



float とは文字通り「浮動」させることで、概念上は浮動した要素は親要素に入っていないことになります。



clear すると、clear した要素のところまで親要素の高さが出てきます。

これを CSS 上で処理するのが **clearfix** です。

## 1. 適当な要素で clear

これがもっとも確実で、問題が少ない方法でしょう。

しかし、clear する適当な要素が入れられない場合もあります。

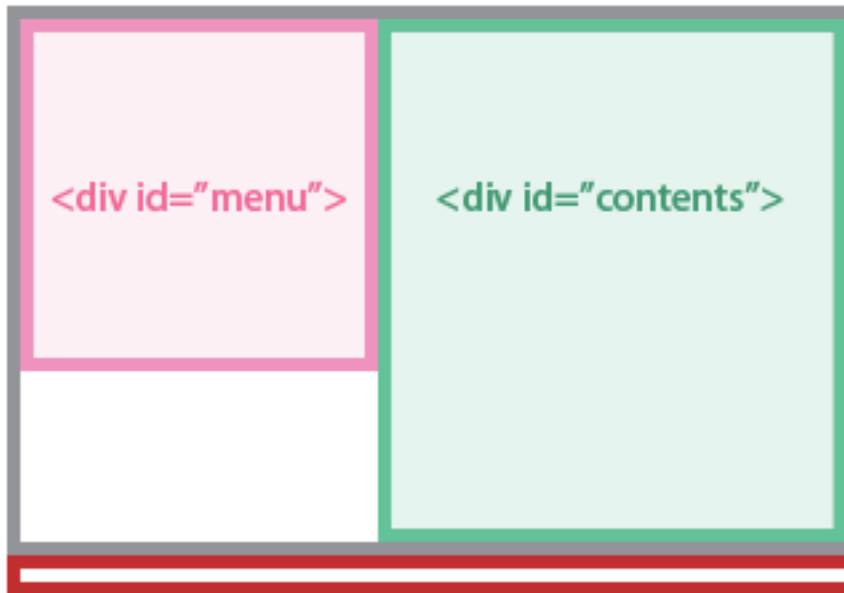
## 2. 親要素に overflow: hidden; と width または height を明示

clearfix のような仰々しい記述をしなくて済むので、手軽に使えます。しかし、overflow: hidden; を充てると困る場合、width や height を指定しない方がよい場合もあります。厳密には float を clear したことにはなっていません。十分な高さが確保されたため、後続する要素が下にまわったというだけのことです。また、この方法では Netscape7.1 で内容が表示されなくなります。

## 3. clearfix を使う。

上記 2 つが使えない場合のとおきとして、用意しておくのがよさそうです。

```
<div id="Wrap" class="clearfix">
```



↑ この場所で「clearfix」は、目に見えない形で以下のようなことをしています。

```
.clearfix:after {
  content: ".";
  display: block;
  height: 0;
  clear: both;
  visibility: hidden;
}
```

- (1) 「clearfix」というclassのついた要素の直後に
- (2) 「。」を追加し、
- (3) それを「ブロック要素」にして、
- (4) 高さを「0」にし、
- (5) floatを解除する。
- (6) そしてそれらを表示しない

## clearfix の使い方

```
.clearfix:after {
  content: ".";
  display: block;
  height: 0;
  clear: both;
  visibility: hidden;
}
```

```
.clearfix{
  display:inline-block;
  min-height:1%;
  /* for IE 7*/
}
```